

# 景観まちづくりかわら版

浦添市景観まちづくり市民会議

発行日:平成 18 年 10 月 10 日発行  
発行者:浦添市景観まちづくり事務局  
(浦添市都市計画部美らまち推進室)  
TEL:876 - 1234(内線 4061 ~ 4064)  
FAX:879 - 7138  
E - Mail: tyuramachi@8761234.jp

第 2 号

第 2 回浦添市景観まちづくり市民会議は、9 月 30 日(土)に浦添市役所 9 階講堂で開催され、市民会議の委員 16 名が参加しました。市民会議の前半は市内視察を行い、後半は各グループに分かれて景観まちづくりに関する特性と課題を整理しました。

## < 市内視察について >

午前中は共通のルートで視察し、午後は市内の北側を中心とする A グループと、市内の南側を中心とする B グループの 2 グループに分かれて視察を行いました。(視察先では仲間・港川・西原各自治会長ら、NPO 法人うらおそい歴史ガイド友の会から説明等して頂きました。)

## < グループワークによる特性と課題について >

市内視察後(後半)は浦添市役所 9 階講堂に戻り、A グループと B グループに分かれて、各委員が日頃感じていることや視察で気づいたこと等をポストイットに書き出し、各グループで意見交換しながら、ファシリテーターの安里さんと友寄さんが中心となって、浦添市景観まちづくりの特性と課題について整理しました。

A グループからは小林委員、銘苅委員、田邊委員、B グループからは又吉委員、金城委員、我如古委員、長浜委員が発表を行いました。その主な内容を以下に紹介します。



港川自治会町から地域活動等の話を聞きながらカーミージーより海岸を眺める



当山の石畳道で意見交換する A グループ



グループワークの様子



A グループの発表の様子



B グループの発表の様子

< Aグループの主な発表内容 >

浦添市の構造として、海に向かって馬蹄形の地形であり、尾根と緑が骨格を形成し、浦添城址を中心に市の南側と北側から河川が挟み込むように流れ、国道・県道の大きな道路が3本南北に走っている。  
浦添グスクを中心として、歴史・文化資源群が多くあり、市内でも高いところに立地しているので、シンボリックな要素である。  
緑・馬蹄形の地形、川、海などの環境をどのように保全し、活かしていくのが課題である。  
カーミージー付近は、今後の市民の憩いの場として、市の景観要素として、あるいは、沖縄本島の中南部地域の自然環境として今後重要なのではないかと。  
浦添グスクからの眺望は素晴らしい。最大のビューポイント。また、経塚あたりからの浦添グスクの為朝岩などが見える景観は大切なので、是非、残してほしい。  
当山の石畳道付近の市街化調整区域で建物が数件建っており、歴史的な雰囲気や環境を阻害している。地域の良い環境をどのように保全したら良いのか。  
ようどれ付近や港川自治会で見た写真をみると、松並木が多くあったのに気づいた。  
仲間地域は高台にあるが、湧き水が多い。その湧き水を利用した地域づくりができないか。  
仲間地域では、この2カ年程、アパート等が急激に増え、地域に馴染まない建物もみられるようになり、とても気になっている。歴史・文化を感じさせる地域、城下町にふさわしいまちづくりができるようにしたい。  
牧港川上流や緑等が残って雰囲気の良い当山などをみたが、汚くて臭い。当山浄化等に取り組み、河川で遊べるような、きれいな河川にできないか。  
市全体では街路樹が少ない。街路樹や住宅からのせり出し（敷地内緑化）が不足している。また、地域にあるシンボルツリー等を大切に保全し、育てていくことが大切である。  
西原のアガリモウ公園では、地域が主体となって地域への支援（まちづくりプラン賞や緑のフェスタ等）を受けながら公園をつくり、地域で「わくわくサークル」をつくり、公園の維持管理している等、地域での取り組みをしていること聞いた。そのようなサークル（地域）活動が市全体に広がれば、素晴らしい浦添市になるだろう。  
公共施設等で赤瓦等が少しづつ増え、景観邸にも良いことなので、赤瓦屋根を今後も増えてほしい。  
国道58号やパイプライン等、広告物（看板）が多いので規制したらどうか。  
景観まちづくりを展開するなら、市の施設や敷地から取り組んでほしい。 . . . 等

< Bグループの主な発表内容 >

浦添グスク一帯から海岸に伸びる緑の稜線は素晴らしい。その緑の骨格を大切にしていけるべき。  
小湾川下流のカーミージーは市内で唯一（自然の海岸）として残っているので、是非残してほしい。  
区画整理地域等は画一的である。緑を残した区画整理ができないか。港川S×Lをみたが、沿道のつくりかた（生垣、セットバック、勾配屋根等）が良かった。また、自然の地形を活かした区画や道路形態が委印象に残っている。  
仲間樋川（ヒージャー）は水が豊富で、手や顔を洗うと気持ちが良い。現在のコンクリートブロックの状況を改善し、入ってみたいとか、癒しや安らぎを感じさせる空間になってほしい。  
仲間地域には、御嶽・拝所等が多く残っており、御嶽・拝所等に行く道筋や道の角に誘導サイン等を設置できないか。  
また、まちづくり等について、住民への周知も必要である。  
小湾川下流域の自然を活かし、親水性の護岸、緑地公園としてできないか。  
国道58号沿道の企業（日産、三菱等）が街路樹の剪定等に取り組んでいる。そのような活動をもっと支援して今後も続けてほしい。  
屋富祖等の集落にある広場も含めた御嶽や巨木などは大切に残されているので、今後も残すような支援をしてほしい。  
牧港川上流（西原町）方面から流れてくる生活排水等があるので、浄化を含めた取り組みを積極的にしてほしい。  
国道58号沿道の商業のネオンサイン（パチンコ屋等）は、夜になると目立ち、景観を阻害している。  
浦添グスクから国道58号付近一帯に伸びる緑の稜線付近で、近年、高層マンションが建ち、周辺地域や国道からの眺めを阻害している。 . . . 等

池田代表（総評）：各グループの発表では、地形や緑地・稜線・尾根線等、大切に重要な骨格について共通認識や考え方ができたと思う。各グループの異なる点について、Aグループでは、浦添グスク周辺から伸びている丘陵地（牧港方面）は（景観的に）重要であるが、高層マンションが建っていたり、歴史的な地域（当山等）の市街化調整区域で住宅が建っていたりなど、重要・大切なものがありながら、その周辺のコントロールがなぜできていないのかという指摘。Bグループでは、通りについて注目し、街路樹も含めた沿道のあり方についての指摘があった。短時間であったが、景観で考える要素について、多くの指摘等があった。次回以降は具体的に展開していく必要があると思う。

